

授業科目名： 教育史特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 須永哲思
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業では、教育について歴史的な視点から理解することを目指す。具体的な到達目標は、以下の3点となる。①「歴史的な視点」から考えるために、近現代日本の教育をめぐる「論争」にかかわる基本的な知識を深めること。その上で、自分自身はその教育論争について何を感じるのか、それをどのように考えるのか、②授業資料（歴史資料、先行研究の知見、映像資料など）を自分なりに「解釈する」ことを通じて歴史的な思考・認識を鍛えること。また、③なぜ自分はそのように「考える」のか（評価／批判するのか、その根拠はどこにあるのか）、他者（講師・他の受講生）と共有可能な論理的文章の形で具体的に表現できるようになること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「教育」をめぐる「論争」の「歴史」を知ることは、どのような意味があるのだろうか。「教育」に限らないことだが、「歴史を知る」ということは、単純に過去の出来事を年表風に時系列に沿って順番に記憶することではない。</p> <p>過去の出来事を記憶するということは、①過去のさまざまな時代状況・社会状況、人々の多様な考え方が存在するなかで（論争の背景）、②当時の人々がどのような課題を抱えその課題を解決するためにどのような立場から議論がなされ（論争の論点・内容）、③どのように解決の途が探られたのか、そのことが実際に実を結んだのか、あるいは結ばなかったのか（論争の結果）、こうした過去の人々のさまざまな動きを理解しようとする際に、はじめて重要な意味を持つ。「教育」をめぐる「論争」の「歴史」を知ることは、現代の社会におけるさまざまな課題について考えるための幅広い視野を得るために必要となる。</p> <p>この授業では、教育について幅広い視野から考えるための具体的な題材として「教育」をめぐる「論争」の「歴史」について取り上げ、それぞれの時代状況のなかでどのような課題が議論・論争され、その結果として教育・学校がどのように変遷・展開されてきたのかについて理解することを通じて、現代の教育について幅広く考える力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション—「教育」の「論争」をめぐる「歴史」に着目する—</p> <p>第2回：教育の基本理念をめぐる論争—教育基本法の教育目的論争—</p> <p>第3回：教育制度をめぐる論争①—六三制発足をめぐる論争—</p> <p>第4回：教科とその内容組織をめぐる論争①—コア・カリキュラム論争—</p>			

第5回：教科とその内容組織をめぐる論争②—社会科教育論争—  
 第6回：教育制度をめぐる論争②—高校「多様化」・「全入」論争—  
 第7回：【受講生による中間報告①】—自分の気になる「教育」の「論争」を探す・設定する—  
 第8回：【受講生による中間報告②】—自分の気になる「教育」の「論争」を探す・設定する—  
 第9回：学習指導と授業論をめぐる論争①—「生活指導」の概念をめぐる論争—  
 第10回：学習指導と授業論をめぐる論争②—「生活綴方」論争—  
 第11回：学力と教育課程政策をめぐる論争①—「学力」論争—  
 第12回：学力と教育課程政策をめぐる論争②—特設「道徳」論争—  
 第13回：学力と教育課程政策をめぐる論争③—「能力主義」と「多様化」をめぐる論争—  
 第14回：【受講生による最終報告①】—「教育」の「論争」を歴史的に考え議論する—  
 第15回：【受講生による最終報告②】—「教育」の「論争」を歴史的に考え議論する—  
 定期試験は実施しない（期末レポートをもって学習の到達度に対する評価を行う）。

テキスト

授業中に毎回プリント資料を配布する。

参考書・参考資料等

久木幸男ほか編『日本教育論争史録』（全4巻、第一法規出版、1980年）、山内乾史ほか『学力論争とはなんだったのか』（ミネルヴァ書房、2005年）など。

学生に対する評価

毎回の小レポート20%、中間レポート20%、期末レポート60%

授業科目名： 臨床教育学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池田華子
			担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>この授業のテーマは、臨床教育学の基礎理論について学ぶことである。到達目標は以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床教育学における主なテーマや方法論について説明できる。</li> <li>2) 臨床教育学の現状と課題について理解している。</li> <li>3) 臨床教育学の立場で書かれた学術論文等を一定程度読みこなすことができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>臨床教育学とは、教育現場が抱える様々な課題（いじめ・不登校・教師 - 子ども関係等）に対して、教育哲学、教育人間学、臨床心理学等の複数の領域にまたがる学際的な方法を構想・実践することによって応えようとする学問領域である。</p> <p>臨床教育学という新しい学問領域の成立が求められた1980年代後半の時代背景を振り返るとともに、それ以降約30年を経た現代において何がテーマとなり、臨床教育学はそれにどのように、どのような方法で応えようとしているのか、最新の論集を元に概説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（臨床教育学とは何か）</p> <p>第2回：臨床教育学の誕生</p> <p>第3回：臨床の知について</p> <p>第4回：臨床教育学と教育哲学</p> <p>第5回：臨床教育学と教育人間学</p> <p>第6回：臨床教育学と臨床心理学</p> <p>第7回：臨床教育学のテーマ（1）弱さ、ヴァルネラビリティ</p> <p>第8回：臨床教育学のテーマ（2）カタストロフィ、厄災</p> <p>第9回：臨床教育学のテーマ（3）語り、ナラティブ</p> <p>第10回：臨床教育学のテーマ（4）身体、受苦</p> <p>第11回：臨床教育学の実践（1）記憶の継承</p> <p>第12回：臨床教育学の実践（2）身体知、実践知の継承</p> <p>第13回：臨床教育学の実践（3）ダイアローグの実践</p> <p>第14回：臨床教育学の可能性</p> <p>第15回：まとめ</p>			

定期試験

テキスト

矢野智司・西平直（編著）『教職教養講座 第3巻 臨床教育学』協同出版、2017年

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

期末試験（85%）、授業内の課題・提出物（15%）

授業科目名： 道徳の理論及び指導法	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 松枝拓生 担当形態：単独
科 目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目</li> <li>・大学が独自に設定する科目</li> </ul>		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の理論及び指導法</li> </ul>		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。</li> <li>2) 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。</li> <li>3) 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。</li> <li>4) 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。</li> <li>5) 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。</li> <li>6) 道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。</li> <li>7) 道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。</li> <li>8) 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。</li> <li>9) 道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。</li> <li>10) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>国内外における道徳教育の理論やそれをめぐる歴史的経緯等の理論的側面と、学校における道徳科の学習指導案の作成方法等の実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な力を身につけることを目指す。</p> <p>地域や家庭の教育力が低下し、グローバル化とともに伝統的な価値の相対化が進む現代社会ではその大きな変化に対応すべく、道徳の教科化をはじめ、道徳や倫理への関心がますます高まっていると言える。そうした現状を踏まえた上で、道徳教育について、「道徳」とは何か、何が「道徳教育」なのかという根本的な問いにまで遡りながら学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：道徳・道徳教育とは何か</p> <p>第2回：道徳教育の基礎・基本（1）道徳と教育の関係</p> <p>第3回：道徳教育の基礎・基本（2）学校における道徳教育の特徴と注意点</p> <p>第4回：道徳教育の歴史（1）戦前の道徳教育</p> <p>第5回：道徳教育の歴史（2）戦後から現在の道徳教育</p> <p>第6回：道徳教育の現状と課題（1）いじめ</p>			

第7回：道徳教育の現状と課題（2）グローバル化、情報モラル

第8回：発達と道徳（1）子ども観と道徳

第9回：発達と道徳（2）ピアジェ、コールバーグ

第10回：道徳教育の授業理論

第11回：道徳科における指導（1）年間指導計画と学習指導案について（模擬授業の実施と振り返り）

第12回：道徳科における指導（2）学習指導の方法と発問について（模擬授業の実施と振り返り）

第13回：道徳科における指導（3）教材分析と授業設計の考え方について

第14回：道徳科における指導（4）評価のあり方とICTの活用について

第15回：道徳教育の理論と実践についてのまとめ

定期試験

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』（平成29年3月）

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』（平成29年7月）

学生に対する評価

毎回の授業の最後に提出してもらうレポート(30%)、定期試験(70%)

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹村和也、小関康平 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日常生活の中で、我々が法を直接意識することは稀ですが、日常生活のほとんどすべての領域は法によって規制されているのであって、社会は法によって動いていると言えます。そのため、法についての知識は社会生活に不可欠ですし、新聞を理解するためにも法について一定の理解を得ることは必要です。また、さまざまな法の中でも憲法は、その国の基本原理を定めた法であり、憲法の基本的な考え方を理解することは社会生活においてなおさら必要であるといえます。</p> <p>このことを踏まえて、本講義では我々の生活に欠かせない法、特に憲法について学び、わが国の基本的な仕組みを説明できること、さらに、そのしくみについて批判的に検討できることを目的とします。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>まず、基礎知識であるわが国の統治機構について学びます。その後、憲法について現在問題となっている幾つかの重要なトピックを取り上げます。取り上げるトピックは、憲法の総論にあたる部分、すなわち憲法の成り立ち、基本原理、幸福追求権、平等権、表現の自由などです。憲法に関係する新しい問題が発生したり、重要な憲法に関連する裁判所の判断（判例）が出た場合には、適宜授業の中で取り扱うこととなりますし、それに応じて授業計画を変更することもあります。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション（憲法とは何かについて）</p> <p>第2回：憲法と統治機構①（立法過程について）</p> <p>第3回：憲法と統治機構②（立法・行政過程について）</p> <p>第4回：憲法と統治機構③（司法過程について）</p> <p>第5回：憲法の成立をめぐる問題</p> <p>第6回：憲法の基本原理（平和主義、9条の解釈、重要影響事態安全確保法）</p> <p>第7回：憲法の基本原理（国民主権・人権）</p> <p>第8回：国際人権の保障</p> <p>第9回：大規模な人権侵害と国際社会の対応</p> <p>第10回：幸福追求権①（医療における自己決定権）</p> <p>第11回：幸福追求権②（生殖における自己決定権と優生保護法）</p>			

第12回：平等権①（最近の最高裁判決について）

第13回：平等権②（同性婚・夫婦別氏制度について）

第14回：表現の自由（ヘイト・スピーチについて）

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

特に指定しない。授業に際して適宜レジュメ及び資料を授業支援システムに掲載する。

参考書・参考資料等

参考文献として、竹下賢・沼口友則・角田猛之・竹村和也編著『入門法学（第5版）』（晃洋出版、2018年）。以下はすべて入手しやすい文献です。青井未帆『憲法を守るのは誰か』（幻冬舎ルネッサンス新書、2013年）、青井未帆『憲法と政治』（岩波新書、2016年）、渋谷秀樹『憲法への招待 新版』（岩波新書、2014年）、長谷部恭男『憲法とは何か』（岩波新書、2006年）、水島朝穂『はじめての憲法教室』（集英社新書、2013年）、木村草太『憲法の創造力』（NHK出版新書、2013年）

学生に対する評価

定期試験(80%)、授業への積極的な参加・小レポート(20%)

授業科目名： 健康スポーツ科学 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松木優也、梅崎さゆり、 蓬田高正
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>健康維持と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたいくつかのスポーツ種目を取り上げ、生涯に渡ってスポーツを親しむために必要な技能を身につける。</p> <p>また活気のある学生生活を過ごせる様に、また将来においても健康な生活ができる知識・理論を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は、学期始めにまず体力テスト（文部科学省指定）を実施し、学生個人に自分自身の体力を把握してもらう。</p> <p>そして、その上で健康維持と体力の保持・増進のための基礎理論を学習しながら、その実践方法を各スポーツ種目の実技を通して学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業内容の説明とスポーツ種目選択）</p> <p>第2回：ウォーキング・ジョギング等の有酸素運動（個々の運動能力の把握）</p> <p>第3回：体力テスト（文部科学省新体力テストの実施及び個々の行動体力の把握）</p> <p>第4回：各種目の特性やルール・マナーを勉強する</p> <p>第5回：基礎技術を学ぶ</p> <p>第6回：基礎技術の練習</p> <p>第7回：基礎技術の復習と応用技術を学ぶ</p> <p>第8回：応用技術の練習</p> <p>第9回：応用技術の復習</p> <p>第10回：応用技術を活かしてゲームを知る</p> <p>第11回：応用技術の練習とゲームを行う</p> <p>第12回：ゲーム・試合を行う</p> <p>第13回：ゲーム・試合をより高度に行う</p> <p>第14回：スポーツ・健康等に関する講義を行う</p> <p>第15回：授業のまとめを行う</p>			
テキスト			

なし

参考書・参考資料等

大学生の健康・スポーツ科学研究会『大学生の健康・スポーツ科学（第5版）』道和書院

学生に対する評価

平常点（50%） 出席数・課題に対して意欲的に取り組んでいるかどうかの授業態度を評価する。

授業内試験）（25%）：スポーツ種目の実践に関する学習内容の習熟度を評価する。

レポート（25%）：授業で学んだ運動処方に関する基礎理論の理解度を評価する。

受講生は3分の2以上の出席、授業内試験の受験、レポートの提出を必須とする。

授業科目名： 健康スポーツ科学 2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松木優也、梅崎さゆり、 蓬田高正
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>健康維持と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたいくつかのスポーツ種目を取り上げ、生涯に渡ってスポーツを親しむために必要な技能を身につける。</p> <p>また活気のある学生生活を過ごせる様に、また将来においても健康な生活ができる知識・理論を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は、学期始めにまず体力テスト（文部科学省指定）を実施し、学生個々人に自分自身の体力を把握してもらう。</p> <p>そして、その上で健康維持と体力の保持・増進のための基礎理論を学習しながら、その実践方法を各スポーツ種目の実技を通して学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業内容の説明とスポーツ種目選択）</p> <p>第2回：ウォーキング・ジョギング等の有酸素運動（個々の運動能力の把握）</p> <p>第3回：体力テスト（文部科学省新体力テストの実施及び個々の行動体力の把握）</p> <p>第4回：各種目の特性やルール・マナーを勉強する</p> <p>第5回：基礎技術を学ぶ</p> <p>第6回：基礎技術の練習</p> <p>第7回：基礎技術の復習と応用技術を学ぶ</p> <p>第8回：応用技術の練習</p> <p>第9回：応用技術の復習</p> <p>第10回：応用技術を活かしてゲームを知る</p> <p>第11回：応用技術の練習とゲームを行う</p> <p>第12回：ゲーム・試合を行う</p> <p>第13回：ゲーム・試合をより高度に行う</p> <p>第14回：スポーツ・健康等に関する講義を行う</p> <p>第15回：授業のまとめを行う</p>			
テキスト			

なし

参考書・参考資料等

大学生の健康・スポーツ科学研究会『大学生の健康・スポーツ科学（第5版）』道和書院

学生に対する評価

平常点（50%） 出席数・課題に対して意欲的に取り組んでいるかどうかの授業態度を評価する。

授業内試験）（25%）：スポーツ種目の実践に関する学習内容の習熟度を評価する。

レポート（25%）：授業で学んだ運動処方に関する基礎理論の理解度を評価する。

受講生は3分の2以上の出席、授業内試験の受験、レポートの提出を必須とする。

授業科目名： 英語 1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 鈴嶋梓、内藤貴夫、中村久美、 日沖直子、疋田隆康、山川仁、 山村誠治、吉田智佳
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・外国語コミュニケーション		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>この授業では簡単な英語の「読む」「聞く」「書く」「話す」の基礎力養成を目指す。さまざまな活動を通じて自分が知りたい情報を収集してまとめる力、自分が伝えたい内容を簡単な英語で伝える力を養成すると同時に、人と協力して作業を行う協働力を養成する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 英語で書かれた情報を読んでその内容を簡単な英語でまとめることができる。</li> <li>2 自分が伝えたい内容を簡単な英語で伝えることができる。</li> <li>3 簡単な英語による発表を聞いてその内容を理解し、質問することができる。</li> <li>4 クラスメートと協働して発表ができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>英語によるプレゼンテーションとその準備活動を通じて、自分が知りたい情報を収集・要約し、自分が伝えたい内容を簡単な英語で伝えられる力を養成する。特に「聞く」「話す」活動では、英語による発表を聞いて理解し、自らも英語で発表できることを、「読む」「書く」では、英語で書かれた情報を読み、その内容を簡単な英文で要約できることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：オリエンテーション：英語によるプレゼンテーションの基礎知識と準備、診断テスト</p> <p>第 2 回：Introduce Yourself（準備 1：スライドの観察と内容の推測・スクリプトの音読・語句と表現・発表について説明・発表の内容のブレインストーミングと内容の構成）</p> <p>第 3 回：Introduce Yourself（準備 2：原稿を書く・スライドの作成・原稿の音読練習）</p> <p>第 4 回：Introduce Yourself（リハーサル・発表）</p> <p>第 5 回：Give Your Ideas（準備 1：スライドの観察と内容の推測・スクリプトの音読・語句と表現・発表について説明・発表の内容のブレインストーミングと内容の構成）</p> <p>第 6 回：Give Your Ideas（準備 2：原稿を書く・スライドの作成・原稿の音読練習）</p> <p>第 7 回：Give Your Ideas（リハーサル・発表）</p> <p>第 8 回：復習</p>			

第9回： Introduce Nice Places in Japan (準備1：スライドの観察と内容の推測・スクリプトの音読・語句と表現・発表について説明・発表の内容のブレーストーミングと内容の構成)

第10回： Introduce Nice Places in Japan (準備2：原稿を書く・スライドの作成・原稿の音読練習)

第11回： Introduce Nice Places in Japan (リハーサル・発表)

第12回： Talk about Your Summer Plans (準備1：スライドの観察と内容の推測・スクリプトの音読・語句と表現・発表について説明・発表の内容のブレーストーミングと内容の構成)

第13回： Talk about Your Summer Plans (準備2：原稿を書く・スライドの作成・原稿の音読練習)

第14回： Talk about Your Summer Plans (リハーサル・発表)

第15回： 総復習・定期試験

テキスト

One minute presentation in English 著者：Noboru Matsuoka/ Kazuo Sobajima 出版社：松柏社

参考書・参考資料等

最初の授業で指示する。

学生に対する評価

授業への参加姿勢 (10%)、発表 (40%)、定期試験 (30%)、課題 (20%) によって総合的に評価する。

授業科目名： 英語 2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 鈴寫梓、内藤貴夫、中村久美、 日沖直子、疋田隆康、山川仁、 山村誠治、吉田智佳 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・外国語コミュニケーション		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>この授業では簡単な英語の「読む」「聞く」「書く」「話す」の基礎力養成を目指す。さまざまな活動を通じて自分が知りたい情報を収集してまとめる力、自分が伝えたい内容を簡単な英語で伝える力を養成すると同時に、人と協力して作業を行う協働力を養成する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 英語で書かれた情報を読んでその内容を簡単な英語でまとめることができる。</li> <li>2 自分が伝えたい内容を簡単な英語で伝えることができる。</li> <li>3 簡単な英語による発表を聞いてその内容を理解し、質問することができる。</li> <li>4 クラスメイトと協働して発表ができる</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>英語 1 で培った力を土台にするため、内容的には少し難度をあげてあるが、目的と方法は英語 1 と同様である。英語によるプレゼンテーションとその準備活動を通じて、自分が知りたい情報を収集・要約し、自分が伝えたい内容を簡単な英語で伝えられる力を養成する。特に「聞く」「話す」活動では、英語による発表を聞いて理解し、自らも英語で発表できることを、「読む」「書く」では、英語で書かれた情報を読み、その内容を簡単な英文で要約できることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：オリエンテーション：英語によるプレゼンテーションの基礎知識と準備、診断テスト</p> <p>第 2 回：Introduce Your Classmates（準備 1：スライドの観察と内容の推測・スクリプトの音読・語句と表現・発表について説明・発表の内容のブレイクストーミングと内容の構成）</p> <p>第 3 回：Introduce Your Classmates（準備 2：原稿を書く・スライドの作成・原稿の音読練習）</p> <p>第 4 回：Introduce Your Classmates（リハーサル・発表）</p> <p>第 5 回：Explain Japanese Culture（準備 1：スライドの観察と内容の推測・スクリプトの音読・語句と表現・発表について説明・発表の内容のブレイクストーミングと内容の構成）</p> <p>第 6 回：Explain Japanese Culture（準備 2：原稿を書く・スライドの作成・原稿の音読練習）</p> <p>第 7 回：Explain Japanese Culture（リハーサル・発表）</p>			

第8回：復習

第9回：Solve Problems（準備1：スライドの観察と内容の推測・スクリプトの音読・

語句と表現・発表について説明・発表の内容のブレインストーミングと内容の構成）

第10回：Solve Problems（準備2：原稿を書く・スライドの作成・原稿の音読練習）

第11回：Solve Problems（リハーサル・発表）

第12回：Talk about Your Future Plans（準備1：スライドの観察と内容の推測・スクリプトの音

読・語句と表現・発表について説明・発表の内容のブレインストーミングと内容の構成）

第13回：Talk about Your Future Plans（準備2：原稿を書く・スライドの作成・原稿の音読練習）

第14回：Talk about Your Future Plans（リハーサル・発表）

第15回：総復習・定期試験

テキスト

One minute presentation in English 著者：Noboru Matsuoka/ Kazuo Sobajima 出版社：松柏社

参考書・参考資料等

最初の授業で指示する。

学生に対する評価

授業への参加姿勢（10%）、発表（40%）、定期試験（30%）、課題（20%）によって総合的に評価する。

授業科目名： コンピュータ入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 曾山典子、持元江津子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パソコンを用いて、文書やプレゼンテーション用スライドを作成することができ、簡単な数値計算を行い、グラフを作成する技術を身につけることができる。</li> <li>・ コンピュータやインターネットの仕組みについての一般常識を理解することができる。</li> <li>・ 情報倫理や情報セキュリティについて理解することができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>コンピュータを使いこなす技術を身につけるため、基本ソフト（Windows）およびアプリケーションソフト（Word、Excel、Powerpoint）の基本的な操作方法を学修する。</p> <p>コンピュータ、インターネットの仕組み、セキュリティ、情報倫理についての一般常識を学修する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要説明</p> <p>第2回：【知識】情報セキュリティと情報倫理</p> <p>第3回：【知識】コンピュータの仕組み、【演習】ファイルとフォルダ(ディレクトリ)</p> <p>第4回：【知識】情報の単位、【演習】WORDの操作方法（文字の入力と編集）</p> <p>第5回：【知識】パソコンの仕組み、【演習】WORDの操作方法（表の作成と編集）</p> <p>第6回：【知識】パソコンの補助記憶装置、【演習】WORDの操作方法（画像や図形の活用）</p> <p>第7回：【演習】WORDの総合演習</p> <p>第8回：【知識】パソコンの周辺機器、【演習】EXCELの操作方法（データの入力と編集、計算式）</p> <p>第9回：【知識】コンピュータ・ネットワーク、【演習】EXCELの操作方法(よく使う関数)</p> <p>第10回：【知識】インターネットの仕組み、【演習】EXCELの操作方法（関数、絶対参照、罫線の編集）</p> <p>第11回：【知識】ネットワーク機器、【演習】EXCELの操作方法（グラフ、印刷、WORDとEXCELの活用）</p> <p>第12回：【知識】Web検索の仕組み、【演習】EXCELの操作方法（IF関数、ソート）</p> <p>第13回：【演習】EXCELの総合演習</p> <p>第14回：【演習】POWERPOINTの操作方法</p>			

**第15回：【演習】総合演習**

テキスト

実教出版編修部『30時間でマスター Office2019 (Windows10対応)』(実教出版)

参考書・参考資料等

高橋参吉 他『コンピュータのしくみ』(実教出版)

森川恵 他『初歩からのネットワーク』(実教出版)

学生に対する評価

平常点(60%)：WORD、EXCEL、POWERPOINTで処理する演習問題 メールを送受信の課題

授業内試験(40%)：コンピュータ、インターネット、情報倫理、WORD・EXCELに関するテスト

授業科目名： 情報処理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 曾山典子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジュアルプログラミングツール「Scratch」を使って、簡単なプログラムを作成することができる。</li> <li>・ C言語を使って簡単なプログラムを作成することができる。</li> <li>・ 自分が意図した通りにコンピュータが情報を処理することができるよう試行錯誤していく中で問題を解決し、プログラムを完成させることができる。</li> <li>・ プログラミングの面白さを感じる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>最初に小学生の情報教育でも使用されているビジュアルプログラミングツール「Scratch」を使って、簡単なプログラムを作成しながら、プログラミングの考え方を学ぶ。次にプログラミング言語Cを学習する。C言語の基本的なルールを学習し、プログラミングの基礎を理解する。テキストエディタを使用してプログラムを入力し、文法上の誤りを無くし、コンピュータが自分の意図した通りに正しく実行するようにしていくプロセスを繰り返し行うことでプログラミング技能を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：本科目の概要説明、プログラミングとは何か</p> <p>第2回：Scratch（操作方法の説明、条件分岐、変数、繰り返し）</p> <p>第3回：Scratch（描画、リスト）</p> <p>第4回：C言語の基本的な説明、エディタの使い方、コンパイラとエラーの修正方法</p> <p>第5回：C言語（出力、四則演算と剰余演算）</p> <p>第6回：C言語（変数とデータの型）</p> <p>第7回：C言語（キーボードからの入力）</p> <p>第8回：C言語（条件分岐、if文の使い方）</p> <p>第9回：C言語（比較演算と論理演算）</p> <p>第10回：C言語（繰り返し、while文の使い方）</p> <p>第11回：C言語（繰り返し、for文の使い方）</p> <p>第12回：C言語（繰り返し、ネストしたfor文の使い方）</p> <p>第13回：C言語（1次元配列）</p>			

第14回：アルゴリズム

第15回：まとめとテスト

テキスト

平田敦『情報演習32 ステップ30 C言語 [基礎編] ワークブック』（カットシステム）

参考書・参考資料等

MAJED MARJI『LEARN TO PROGRAM WITH SCRATCH』（NO STARCH PRESS出版）

B. W. カーニハン『プログラミング言語C 第2版 ANSI規格準拠』（共立出版）

学生に対する評価

平常点(60%)：毎回の授業で出題する課題で評価する

授業内試験(40%)：総合的にC言語プログラミングの理解度を確認するための試験で評価する

授業科目名： 英語A (Reading)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 山本享史、田林宏章、森田晃司 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英米語圏の文化、社会に関する教材（500-600 語 TOEIC 550-600 レベル）について</p> <p>①筆者の中心メッセージを押さえることに主眼を置いて精読ができる。</p> <p>②各英文の構文・文法・語意を正確に捉えながら読むことができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>難度と分量を調節した英米語圏の文化、社会に関する教材（500-600 語 TOEIC 550-600 レベル）をテキストに用いて、読解のトレーニングを行う。授業では内容や語彙、表現に関する確認に加えて、内容についてペアやグループ、クラスでのディスカッション等も行う。授業内容に関連する Further Reading の教材を課題として課す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業概要説明、英語力判定テストおよび解説、アンケート</p> <p>第2回：読解 (1) Laughing Matters</p> <p>第3回：読解 (2) A Spreading Problem</p> <p>第4回：読解 (3) Juneteenth</p> <p>第5回：読解 (4) Father' s Day</p> <p>第6回：読解 (5) Watch Your Language</p> <p>第7回：読解 (6) A New York State of Mind</p> <p>第8回：読解 (7) Illegal</p> <p>第9回：読解 (8) Living with Animals</p> <p>第10回：読解 (9) Speaking of Facebook</p> <p>第11回：読解 (10) What Men Want</p> <p>第12回：読解 (11) Don' t Shoot!</p> <p>第13回：読解 (12) Good Question</p> <p>第14回：読解 (13) Making the Grade</p> <p>第15回：総括および読解力確認テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>Jim Knudsen 『U.S.A. Update いま、アメリカを読む』 (Nan' un-do)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業内で資料を適宜配付する。</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

授業への取り組みと授業前後に課す課題等の仕上がりの程度(50%)。随時行う語彙小テストと最終時に行う読解力確認テスト(50%)。

授業科目名： 英語A (Writing)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：小松崎利明、 山本晃司、鈴寫梓
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法試行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業では、英語を書く際に注意すべき基礎的事項を学びながら、英文作成のトレーニングを実施する。到達目標は、(1) 基本的な文法上のミスをせずに短い英文を作成することができる、そして(2) 英英辞書を活用して、語のニュアンスにも配慮しながら適切な表現を用いることができる、である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、まとまった英語を書く能力の基礎を養う入門編である。英文作成においては、文法の正確な知識と同義語を適切な使い分けが不可欠であることから、文法と語彙に焦点をあてて英文作成のトレーニングを実施する。毎回の授業では、文法事項の確認を行ったのち、それを土台とした練習問題を使って英文作成の要点を身につけていく。また、授業後は課題への取り組みを通じて英文作成能力の向上を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：文型</p> <p>第2回：文の種類</p> <p>第3回：品詞</p> <p>第4回：名詞、冠詞、代名詞</p> <p>第5回：時制</p> <p>第6回：前置詞</p> <p>第7回：助動詞</p> <p>第8回：進行形</p> <p>第9回：現在完了</p> <p>第10回：動名詞と不定詞</p> <p>第11回：比較級と最上級</p> <p>第12回：受動文</p> <p>第13回：条件文</p> <p>第14回：関係節</p> <p>第15回：接続詞</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

早川聖司／小池祐子／大津理香『Straight Path: Essentials for English Grammar and Writing 再入門：学んで試せる英文法＋英作文』（南雲堂、平成28年）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出する課題（20％）

授業科目名： 英語A (Oral Communication 1)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：島田拓司、 小林千穂、尾上貴行、鈴嶋梓 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 標準的な発音を聞き、似たような音が使われる語を聞き分ける。 2. 明瞭かつ注意深い発話で、やや長めの英語表現を聞き取り、理解する。			
授業の概要			
この授業は英語リスニングの初級に相当するため、単語レベルの発音からはじめて句や文レベルで起こる様々な特徴（音の脱落・同化・連結）を理解することを重視し、その音声変化パターンを学習する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、診断テスト			
第2回：Unit 1 Eating Out - Fried Rice or Fried Lice? 子音 /l/, /r/			
第3回：Check in - Woof! Woof! What is this sound? 子音 /w/ Unit 2			
第4回：Unit 3 Sightseeing - Do you need a fan or a van, vase or base? 子音 /f/, /v/			
第5回：Unit 4 Getting Directions - Thank you or sank you? 子音 /θ/, /ð/			
第6回：Unit 5 Shopping - I'm on a seafood diet. I see food and I eat it. 子音 /s/, /z/, /ʃ/			
第7回：Unit 6 Review I (Unit 1-5) 子音 /p/, /b/, /t/, /d/, /k/, /g/			
第8回：Unit 7 Monitoring 1 / Presentation リズムとイントネーション			
第9回：Unit 8 Phone Calls - Do you need a cab or a cap? 母音 /æ/, /ɑ/			
第10回：Unit 9 A Date? What are English stress, rhythm and intonation 母音 /ei/, /iə/, /ɛə/, /uə/			
第11回：Unit 10 Language School 音の連結（破裂音+母音、鼻音+母音、その他の子音+鼻音）			
第12回：Unit 11 Hello from Japan - A horse says neigh, neigh, neigh. 破裂音（語尾、文末、子音の前、様々な[t]の音）			
第13回：Unit 12 Review II (Units 1-11) / Monitoring 2 音の同化 (/t/, /d/ + /j/)			
第14回：テキスト内容の総括 音の同化 (/s/, /z/)+ /j/)			
第15回：まとめと振り返り			
定期試験			
テキスト			
『発音のしくみと会話の総合演習』中條純子著 三修社			
参考書・参考資料等			

なし

学生に対する評価

毎時間行う小テストの合計点(40%)、定期テスト(50%)、課題(10%)で評価する。

授業科目名： 英語A (Oral Communication 2)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： Mano, George, Jeremy WOOD 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 Natural phonetics and rhythm in English (英語の自然な音韻とリズムを身につけることに重点おき、コミュニケーション力を高める。)			
授業の概要 Class lessons will make use of pronunciation drills, the IPA, and pair work for practice. Students will practice saying phrases, not just words. (授業では、発音ドリル、IPA、ペアワークなどを用いて練習する。単語だけでなく、フレーズを言うトレーニングを行う。)			
授業計画 第1回：My family and me, Pronunciation: /æ/ and /ɑ/ (「私の家族と私」、発音：/æ/ と /ɑ/) 第2回：The weather, Pronunciation: /ə/ and /ə/ (「天候」発音：/ə/ と /ə/) 第3回：Sports, hobbies, and leisure, Pronunciation: /æ/ and /e/ (「スポーツ、趣味、レジャー」発音：/æ/ と /e/) 第4回：Review & Quiz 1 (復習と小テスト1) 第5回：Religion, Pronunciation: /o/ and /ɔ/ (「宗教」発音：/o/ と /ɔ/) 第6回：Politics, Pronunciation: /ə/ and /ɔ/ (「政治」発音：/ə/ と /ɔ/) 第7回：Economics, Pronunciation: /ə/ and /o/ (「経済学」発音：/ə/ と /o/) 第8回：Review & Quiz 2 (復習と小テスト2) 第9回：History, Pronunciation: /u/ and /ʊ/ (「歴史」発音：/u/と/ʊ/) 第10回：Health and Medicine, Pronunciation: /w/ and /u/ (「健康と医学」発音：/w/ と /u/) 第11回：Science, Pronunciation: /ʊ/ and /ə/ (「科学」発音：/ʊ/と/ə/) 第12回：Review & Quiz 3 (復習と小テスト3) 第13回：Jobs, Pronunciation: /er/ and /ar/ (「仕事」発音：/er/ と /ar/) 第14回：Food, Pronunciation: /ar/ and /ər/ (「食べ物」発音：/ar/ と /ər/) 第15回：Review & Quiz 4 (復習と小テスト4)			
テキスト No text, Professor will provide handouts and supplements (ハンドアウトと補助教材を使用)			
参考書・参考資料等 Dictionary (辞書)			

学生に対する評価

4 quizzes (4回の授業内小テスト)

授業科目名： 英語A (Integrated English)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小林千穂、山本享史、大西善徳 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法試行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業では、「聞く」、「話す」、「書く」、「読む」の4技能を統合的に用いることにより、実践的なコミュニケーション能力の育成を目指す。授業は基本的に英語で行われ、日常的话题から社会的な話題まで、幅広い話題について、情報や考えを理解し、発信する技能統合型の活動を行う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>アメリカの主要都市の歴史、文化、社会問題についてビデオを視聴しながら学ぶ。ビデオには、地元の人々へのインタビューを収録したのも含まれるので、様々なトピックについて個々のアメリカ人の見解についても学ぶ。ビデオの視聴に加えて、関連するトピックのリーディング教材を読んだり、ペアやグループでディスカッションを行ったりしながら、考察を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Boston, Massachusetts (ビデオ視聴)</p> <p>第2回：Boston, Massachusetts (リーディング)</p> <p>第3回：Maine (ビデオ視聴)</p> <p>第4回：Maine (リーディング)</p> <p>第5回：New York City 1 (ビデオ視聴)</p> <p>第6回：New York City 1 (リーディング)</p> <p>第7回：New York City 2 (ビデオ視聴)</p> <p>第8回：New York City 2 (リーディング)</p> <p>第9回：Washington, D.C. (ビデオ視聴)</p> <p>第10回：Washington, D.C. (リーディング)</p> <p>第11回：Charleston, South Carolina (ビデオ視聴)</p> <p>第12回：Charleston, South Caroline (リーディング)</p> <p>第13回：Savannah, Georgia (ビデオ視聴)</p> <p>第14回：Savannah, Georgia (リーディング)</p> <p>第15回：まとめ+レビューテスト</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>Todd Rucynski他『American Vibes: People, Places and Perspectives』(金星堂)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

小テスト（20%）、レビューテスト（60%）と授業への参加姿勢・課題の提出状況（20%）を総合的に評価する。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 須永哲思
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「教育」とは何か。教育学の基本的概念を理解し、教育の歴史・思想の展開において、教育の理念がどのように変容していったかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。具体的な到達目標は以下の3点である。</p> <p>①教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。②教育の思想・歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。③教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、①私たちの教育言説のもとになっている思想・概念・用語について学び、それを通じて教育とは何かを考える材料を提示し、習得すること、②現代の学校教育に関するさまざまな状況・問題について学び、その歴史的経緯について考えること、の2点を通じて、③現代の教育について私たちが考える思いや疑問について、問題を発見し、論理的に考え、考えを表現できる力を身につけるための知識を共有する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「教育」の「原理」とは何か？—教育学の意義と基本概念—</p> <p>第2回：「教育」を取り巻く諸要因—人間形成・世代交代のシステム—</p> <p>第3回：教育の思想①—古代の教育思想：ソクラテス・プラトン—</p> <p>第4回：教育の思想②—近代教育思想の源流：ロック・コメニウス—</p> <p>第5回：教育の思想③—近代教育思想の展開：ルソー・ペスタロッチ・ヘルバルト—</p> <p>第6回：教育の思想④—「新教育」運動の隆盛：デューイ・モンテッソーリ—</p> <p>第7回：教育の歴史①—近代学校成立以前の子どもたちの生活、家族・社会のあり様—</p> <p>第8回：教育の歴史②—近代教育制度の成立、近代学校の誕生—</p> <p>第9回：教育の歴史③—大正新教育運動の展開—</p> <p>第10回：教育の歴史④—戦時教育と戦後教育改革—</p> <p>第11回：教育の歴史⑤—高度経済成長期の学校と子どもたち—</p> <p>第12回：現代社会の教育課題①—日本の教育制度と諸外国との比較・検討—</p> <p>第13回：現代社会の教育課題②—生涯学習・リカレント教育の提唱と模索—</p> <p>第14回：現代社会の教育課題③—「子どもの権利条約」と子どもの貧困—</p>			

第15回：現代の教育課題を歴史的観点から考える

定期試験は実施しない（期末レポートをもって学習の到達度に対する評価を行う）。

テキスト

授業中に毎回プリント資料を配布する。

参考書・参考資料等

大田堯『教育とは何か』（岩波書店、1990年）、木村元編『教育学』（第7版、医学書院、2019年）など。

学生に対する評価

毎回の小レポート30%、中間レポート10%、期末レポート60%

授業科目名： 教育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 須永哲思 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①「歴史的に考える」ために、近代日本の教育史にかかわる基本的な知識を深める。その上で、自分自身はその歴史的事象（「教育」）について何を感じるのか、それをどのように考えるのか、②授業資料（歴史資料、先行研究の知見、映像資料など）を自分なりに「解釈する」ことを通じて歴史的な思考・認識を鍛えるとともに、③なぜ自分はそのように「考える」のか（評価／批判するのか、その根拠はどこにあるのか）、他者（講師・他の受講生）と共有可能な論理的文章の形で具体的に表現できるようになる。</p>			
授業の概要			
<p>この授業の目的は、日本の教育の歴史の流れを辿ることを通して、「教育とは何か」という問いについて受講生自身が「歴史的」に「考える」ことができるようになることである。「資料」の解釈・評価・批判的検討を通して、受講生自身が「考える」（自らの主張・認識・価値観を論理的で具体的な文章として表現する）という練習を積み、ということの主眼において授業を進める。／毎回の授業内容に関するリアクションペーパーの作成・提出、および、他者のリアクションペーパーの共有・講師からのリプライを通して、「教育」を「歴史的に考える」とはどのように可能なのか、思考を深める機会にして欲しい。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション—教育の歴史を学ぶことの意義—			
第2回：「教育」を取り巻く諸要因—人間形成・世代交代のシステム—			
第3回：原始時代・古代の「子ども」と「学校」—scholēと大学寮—			
第4回：中世の「子ども」と「学校」—児童労働にみる中世日本の子ども観・家族観—			
第5回：近世の「子ども」と「学校」①—「子宝」「子返し」にみる近世日本の子ども観・家族観—			
第6回：近世の「子ども」と「学校」②—「手習塾」「藩校」「私塾」での学びのあり方—			
第7回：近世の教育思想—貝原益軒『和俗童子訓』にみる模倣と習熟—			
第8回：近代の教育思想—子どもの発見（ルソー）と児童中心主義（ペスタロッチ）—			
第9回：近代学校制度の歴史①—「学制」の理念と実態—			
第10回：近代学校制度の歴史②—教育勅語体制下の学校空間—			
第11回：近代学校制度の歴史③—第三次小学校令による義務教育体制の整備—			
第12回：近代学校制度の歴史④—大正自由教育の展開、生活綴方運動の隆盛—			
第13回：近代学校制度の歴史⑤—戦時体制の中の学校・社会—			

第14回：近代学校制度の歴史⑥—戦後教育改革の射程—

第15回：現代の教育課題を歴史的観点から考える

定期試験は実施しない（期末レポートをもって学習の到達度に対する評価を行う）。

テキスト

授業中に毎回プリント資料を配布する。

参考書・参考資料等

久木幸男編著『20世紀日本の教育』（サイマル出版会、1975年）、山本正身『日本教育史』（慶應義塾大学出版会、2014年）、高橋陽一『新しい教育通義』（武蔵野美術大学出版会、2018年）

学生に対する評価

毎回の小レポート30%、中間レポート10%、期末レポート60%

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上田喜彦
			担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>我が国における教育の動向を踏まえ、今日の学校教育や教職の社会的意義及び教員に求められる役割や資質能力並びに教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解し、学校内外の専門家との連携などチーム学校への対応について理解できる。</p> <p>以上の目的を達成するために、学校教育を取り巻くさまざまな具体的な事例や課題をテーマとしてとりあげ考察する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、講義やグループでのワークショップを通して、今日の学校教育や教職の社会的意義を理解し、「教職の意義や教員の役割」について考察し、「教員の職務内容」について学ぶとともに、「チーム学校」の一員として活躍できる資質や能力について考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：めざす教師像と教職への道筋</p> <p>第2回：学校教育の意義と教育の目的</p> <p>第3回：学校教育の現状と課題</p> <p>第4回：学校教育の課題解決に向けて(1) 地域・家庭・保護者との連携</p> <p>第5回：学校教育の課題解決に向けて(2) 専門家等の連携とチーム学校</p> <p>第6回：教員の身分及び服務義務</p> <p>第7回：教員の職務と役割 教員の1日</p> <p>第8回：学校教育と教師観の変遷</p> <p>第9回：学習指導要領の変遷と学力観・教育評価</p> <p>第10回：様々な教育課題について考える(1) 生徒指導・いじめや不登校への対応</p> <p>第11回：様々な教育課題について考える(2) 道徳教育・特別活動</p> <p>第12回：様々な教育課題について考える(3) 現代的な課題への対応（E S D・人権教育等）</p> <p>第13回：様々な教育課題について考える(4) 現代的な課題への対応（国際理解教育・外国語教育等）</p> <p>第14回：様々な教育課題について考える(5) 現代的な課題への対応（特別支援教育等）</p> <p>第15回：教員研修と教員に求められる資質能力</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

教科書(テキスト)は指定しないが参考文献を紹介。授業では学修に必要な資料を配布。

参考書・参考資料等

井藤元〈2017〉『ワークで学ぶ教職概論』ナカニシヤ出版

学生に対する評価

小レポートを30点満点、定期試験を70点満点で評価し合計を100点満点として評価する。

【小レポートの評価規準】

A：授業の内容を十分理解し、自らの考えも記述できており、表現が優れている。

B：授業の内容をほぼ理解しており、表現が適切である。

C：授業内容の理解不足が見られ、表現が不適切である。

として、全体の30%の得点に換算する。

少レポートの得点と提起テストの得点を合計して100点満点とし、授業への積極的な参加の状況を加味して総合的に評定する。

授業科目名： 学校教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 須永哲思 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>「学校」とは、どのような制度的な基盤のもとでどのように経営されているのか、地域社会との連携や学校の安全はどのように模索されているのか。現代の教育制度や教育行政機関の役割・意義、学校と社会状況の変化の関わり、地域社会と学校づくり、学校の安全について、基礎的な知識を身につけ、現代的な課題についての理解を深める。具体的な到達目標は以下の3点である。①現代の学校教育に関する社会的・制度的・経営的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、②学校の抱える現代的な課題について理解する。また、③学校と地域との連携や学校安全への対応について、近年の具体的な取り組みを通じて知識を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>この授業では、現代の学校教育をめぐる様々な問題について、①複眼的視点（制度的・社会的・経営的視点、地域社会との関わり、学校の安全）から考えることができるようにそれぞれの基礎的な知識を身につける。また、そうした問題への理解を深め自分自身の考えをまとめることを通じて、②学校をめぐる現代的課題に対応しうる力を身につける。</p>			
授業計画			
第1回：「学校」はなぜ必要とされるのか—公教育制度の意義・原理—			
第2回：学校教育に関する法制度①—「日本国憲法」「教育基本法」の理念—			
第3回：学校教育に関する法制度②—「学校教育法」「学校教育法施行規則」「学習指導要領」—			
第4回：学校教育に関する法制度③—「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」—			
第5回：子どもの生活・日本社会の変容と学校教育①（1930年代～1960年代）			
第6回：子どもの生活・日本社会の変容と学校教育②（1960年代～1980年代）			
第7回：子どもの生活・日本社会の変容と学校教育③（1980年代～2000年代）			
第8回：学校教育と現代社会①（SNS・ネット社会と子どもたち）			
第9回：学校教育と現代社会②（グローバル化と学校教育）			
第10回：学校教育と現代社会③（諸外国の教育事情や教育改革の動向）			
第11回：学校経営の理念と学校評価—カリキュラム・マネジメントとPDCAサイクル—			
第12回：学級経営の方法—学級づくりとチーム・ティーチング—			
第13回：学校と地域社会の連携・協働—開かれた学校づくり—			
第14回：学校の安全—危機管理・事故対応、安全教育の課題—			
第15回：これからの「学校」とはどのようにあるべきか—公教育制度の現代的課題—			

定期試験は実施しない（期末レポートをもって学習の到達度に対する評価を行う）。

テキスト

授業中に毎回プリント資料を配布する。

参考書・参考資料等

山崎準二編著『教師という仕事・生き方』（第2版、日本標準、2009年）、高見茂ほか編『教育法規スタートアップ・ネクスト』（昭和堂、2018年）など。

学生に対する評価

毎回の小レポート45%、中間レポート10%、期末レポート45%

授業科目名： 学校教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 仲 淳
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解し、その理解に基づいて学習に関する基礎的知識を身に付け、学習の支援及び指導についての基礎的な考え方を習得する。			
授業の概要			
主に講義形式で、人の発達についての様々な概念や理論及び時期別の特徴などの理解と、学習の概念やいろいろな形態及びそのプロセスの理解を深めるための解説を行っていく。動機付け(やる気)や知能と創造性、人格、コミュニケーション、グループや学習評価にかかわる各種の理論についても触れながら、生徒の発達と学習を支援し、指導していくための基礎的な考え方の習得を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーションと導入授業			
第2回：発達（1）発達の概念の解説と、赤ちゃんの発達にかかわるDVDの視聴			
第3回：発達（2）胎児期の発達、新生児期・乳児期・幼児期の発達			
第4回：発達（3）言葉の発達、ピアジェの発達段階理論			
第5回：発達（4）エリクソンのライフサイクル理論、コールバーグの道徳性の発達段階理論			
第6回：発達（5）発達の要因と相互作用、発達の考え方のまとめ			
第7回：学習（1）連合説と認知説の学習理論			
第8回：学習（2）観察学習の理論と学習における記憶の働き			
第9回：学習（3）学習における動機づけ（やる気）			
第10回：学習（4）学習における知能と創造性			
第11回：発達と学習における人格と個性（1）：人格の概念と人格理論			
第12回：発達と学習における人格と個性（2）：人格理解の方法と心理テスト			
第13回：発達と学習におけるコミュニケーション（1）：グループ・コミュニケーション理論			
第14回：発達と学習におけるコミュニケーション（2）：発達と学習を促すコミュニケーション			
第15回：学習の評価の理論と総まとめ			
定期試験			
テキスト：『こどもの心が見えてくる本』（あいり出版）			
参考書・参考資料等：授業時に適宜指定する。			
学生に対する評価：学期末の定期試験によって評価する。			

授業科目名： 特別な支援の必要な 生徒の理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金山佐喜子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業の概要 講義、演習を通じて、次の3つの目標を達成できるように授業を展開する。 1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。			
授業計画 第1回：特別支援教育を学ぶにあたって 第2回：特別支援教育を実践する教師のあり方 第3回：「障害」とは 第4回：「発達障害」とは 第5回：特別支援教育の理念 第6回：特別支援教育の仕組み、通級による指導・自立活動の教育課程上の位置づけと内容 第7回：共生社会に向けた学級づくりとチーム支援、特別支援教育コーディネーターの役割 第8回：発達障害や軽度知的障害をはじめ特別の支援を必要とする子どもを支援するための方法 第9回：特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえた個別の指導計画、個別の教育支援計画 第10回：関係機関、家庭との連携 第11回：保護者支援 第12回：事例研究 第13回：障害受容 第14回：特別の教育的ニーズのある子ども 第15回：今後の学習の指針を得る			
テキスト			

なし

参考書・参考資料等

河村茂雄（編著） 2017 学級担任が進める特別支援教育の知識と実際：集団の教育力を生かしたインクルーシブ教育の実現 図書文化社

学生に対する評価

毎回の授業の最後に提出する課題（100%）

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上田喜彦
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校教育において教育課程が有する役割や機能、意義、教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法について理解できるとともに、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解できる。</p> <p>この目的達成のために、教育課程の歴史的変遷やその背景となる教育思想等について考察し、教育課程編成の基礎及び学校評価、カリキュラム・マネジメントの具体的な事例研究等をテーマに考察する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、講義や個人・グループでのワークショップを通して、教育課程の役割や意義及び我が国の学校における教育課程や学習指導要領の変遷について理解し、教育課程編成の基本原則について学ぶとともに、カリキュラム・マネジメントの重要性や意義について考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育課程とは何か ー教育課程及び教育評価 今、問われていることー</p> <p>第2回：現代の教育課題と教育課程</p> <p>第3回：学校制度と教育課程に関する法規</p> <p>第4回：カリキュラム改革の歴史（1）～明治以前の学校と教育～</p> <p>第5回：カリキュラム改革の歴史（2）～明治時代の学校教育と教育課程</p> <p>第6回：カリキュラム改革の歴史（3）～大正時代の学校教育と教育課程</p> <p>第7回：カリキュラム改革の歴史（4）～昭和初期（昭和20年代まで）の学校教育と教育課程</p> <p>第8回：学習指導要領の変遷とその背景（1）～経験カリキュラムから系統カリキュラムへ</p> <p>第9回：学習指導要領の変遷とその背景（2）～新しい学力観とコンピテンシーベースのカリキュラム</p> <p>第10回：教育課程編成の基本原則</p> <p>第11回：教育課程編成の方法と実践</p> <p>第12回：教育評価の基礎理論</p> <p>第13回：教育評価の方法と指導要録の変遷</p> <p>第14回：カリキュラム・マネジメントの意義と役割</p> <p>第15回：カリキュラム評価の理論と方法 ～授業評価・カリキュラム評価・学校評価～</p>			

**定期試験****テキスト**

上田喜彦『近代日本の学校教育の歴史～教育課程の変遷を中心に～』教育課程論授業用テキスト

**参考書・参考資料等**

文部科学省「中学校学習指導要領解説 総則編」「高等学校学習指導要領解説 総則編」

**学生に対する評価**

小レポートを30点満点、定期試験を70点満点で評価し合計を100点満点として評価する。

**【小レポートの評価規準】**

A：授業の内容を十分理解し、自らの考えも記述できており、表現が優れている。

B：授業の内容をほぼ理解しており、表現が適切である。

C：授業内容の理解不足が見られ、表現が不適切である。

として、全体の30%の得点に換算する。定期テストは、70点満点に換算する。

これらを合計して100点満点とし、授業への積極的な参加の状況を加味して総合的に評定する。

授業科目名： 特別活動・総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹村景生
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の指導法（中学校）</li> <li>・総合的な探究の時間の指導法（高等学校）</li> <li>・特別活動の指導法</li> </ul>		
授業の到達目標及びテーマ			
特別活動及び総合的な学習の時間ならびに総合的な探究の時間の基礎理論（原理）及び指導法を学び、実践的指導力の基礎を養うこと。			
授業の概要			
<p>社会の変化に伴う子どもたちのコミュニケーションの質の低下や人間関係の希薄化等の現代的な課題を念頭に置きながら、それらの課題に応える上で特別活動や総合的な学習の時間の果たす役割について学ぶ。特別活動に関しては、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という三つの視点を中心に、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等を含めた特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識・素養を身につけ、また、総合的な学習の時間ならびに総合的な探究の時間に関しては、実社会・実生活における諸課題を探究する学びを実現するために必要な、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。</p> <p>ICT活用について、資料収集法や教材開発、授業デザインの方法を、具体例を通してその実践力を身につける。さらに、シンキングツールの活用法やICTを活用したプレゼンの方法も身につける。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：特別活動の基礎・基本（1）特別活動の位置づけ			
第3回：特別活動の基礎・基本（2）特別活動の教育機能			
第4回：特別活動の各内容（1）学級活動・ホームルーム活動			
第5回：特別活動の各内容（2）児童会・生徒会活動、クラブ活動			
第6回：特別活動の各内容（3）学校行事			
第7回：特別活動の指導（1）話し合い活動、集団における意思決定			
第8回：特別活動の指導（2）地域社会等との連携のあり方			
第9回：総合的な学習の時間ならびに総合的な探究の時間の基礎・基本（1）位置づけと教育機能			
第10回：総合的な学習の時間ならびに総合的な探究の時間の基礎・基本（2）主体的・対話的で深い学びについて			

第11回：総合的な学習の時間ならびに総合的な探究の時間の指導（1）年間指導計画の作成  
 第12回：総合的な学習の時間ならびに総合的な探究の時間の指導（2）探究的な学習の方法 ICT活用による設計法  
 第13回：総合的な学習の時間ならびに総合的な探究の時間の指導（3）探究的な学習の実現  
 第14回：特別活動・総合的な学習の時間ならびに総合的な探究の時間の評価のあり方  
 第15回：まとめ

テキスト

テキストは特に指定しない。

参考書・参考資料等

日本特別活動学会監修『新訂 キーワードで拓く新しい特別活動』（東洋館出版社）

稲垣忠彦『総合学習を創る』（岩波書店）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成29年7月）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成29年7月）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』（平成30年7月）

国立教育政策研究所教育課程研究センター『学級・学校文化を創る特別活動』（東京書籍）

学生に対する評価

平常点(30%)：毎回の授業中に課す提出課題

レポート(70%)：期末試験での最終レポートで評価する。

評価観点1：特別活動ならびに総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解している。

評価観点2：特別活動ならびに総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けている。

評価観点3：特別活動並びに総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解している。

授業科目名： 教育方法学（情報通信 技術を活用した教育の 理論及び方法を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上田喜彦、小島源一郎 担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法及び技術</li> <li>・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法</li> </ul>		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育方法の基礎理論と実践を理解し、主体的・対話的で深い学びの実現のための教育方法の在り方を理解できる。</li> <li>○教育の目的に応じた授業を行なう上で必要な教育技術について理解し、授業設計とその実践の方法について理解できる。</li> <li>○情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進のあり方や情報モラルを含む情報活用能力を育むための指導法について理解できる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質能力を育成するために必要な教育の方法・技術及びICTの教育への活用等について、講義やグループワーク、協同学習、情報機器による演習などを通して理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：これからの生徒に育みたい資質能力</p> <p>第2回：教師に求められる授業力</p> <p>第3回：学習指導の理論～教育方法の歴史的な変遷から学ぶ～</p> <p>第4回：授業設計と学習指導案：指導及び評価の計画</p> <p>第5回：授業実践のための基礎的な技術及び学習評価</p> <p>第6回：主体的・対話的で深い学びに資する協同学習の理論と評価の実際</p> <p>第7回：学校の教育活動と著作権、情報モラルの教育</p> <p>第8回：主体的対話的な学習過程とICTの活用～ICTの教育への活用の意義と役割～</p> <p>第9回：情報活用能力の育成とICTの活用～学習指導と校務への活用の実際～</p> <p>第10回：ICTを活用した教材開発とその活用①～Office365（ワード）を用いた教材作成～</p> <p>第11回：ICTを活用教材開発とその活用②～Office365（パワーポイント）を用いた教材動画作成～</p> <p>第12回：ICTを活用した教材開発とその活用③～Google Workspace for Educationを用いた学習指導～</p> <p>第13回：ICTを活用した教材開発とその活用④～Google Workspace for Educationを用いた評価活動～</p> <p>第14回：ICTを活用した教材開発とその活用⑤～ロイロノートを用いた教材作成と授業</p> <p>第15回：ICTを活用した教材開発とその活用⑥～ICT活用の留意点と模擬授業～</p>			

**定期試験****テキスト**

稲垣忠『教育の方法と技術Ver2 IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』北大路書房

**参考書・参考資料等**

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」

「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」

その他、授業の内容に合わせてプリントを配布するとともに参考文献を適宜紹介する

**学生に対する評価**

授業ごとに提出する小レポートは評価規準に基づき40点満点、中間テスト30点満点、期末のレポート課題30点で評価する。これらに授業への積極的な参加の状況を加味して総合的に評定する。

**【小レポート及びレポートの評価規準】**

A：授業の内容を十分理解し、自らの考えも記述できており、表現も優れている。

B：授業の内容をほぼ理解しており、表現が適切である。

C：授業内容の理解不足が見られ、表現が不適切である。

授業科目名： 教育相談の理論及び方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 仲 淳 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 学校における教育相談の意義と理論を理解し、教育相談を行っていくのに必要な知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を身に付け、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性について学ぶ。			
授業の概要 主に講義形式で、教育相談の今日的意義や現代のこどもたちの心の発達、さまざまなカウンセリング技法といろいろな問題についての対応の仕方、連携の重要性などについて解説を行いながら、DVDなどの映像資料の視聴やグループディスカッションなどの参加型の形式も取り入れて、より実践的に教育相談について自ら考える構えができるような授業を行っていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション。教育相談とは？その意義と課題。 第2回：こどもが生きる現代の問題と課題。 第3回：こどもの心の発達 思春期を中心に。 第4回：SOSのサインとしてのこどもの心の問題とさまざまな不適応行動。 第5回：カウンセリングとは？カウンセリングマインドとは？ 第6回：カウンセリングにおける受容と傾聴、共感。 第7回：いろいろなカウンセリング技法（1）精神分析的方法 第8回：いろいろなカウンセリング技法（2）認知行動療法的な方法 第9回：いろいろなカウンセリング技法（3）遊戯療法・芸術療法・その他の方法 第10回：さまざまな問題への対応（1）不登校について 第11回：さまざまな問題への対応（2）いじめについて 第12回：さまざまな問題への対応（3）非行・学級崩壊について 第13回：さまざまな問題への対応（4）いろいろな精神的失調について 第14回：学校における組織的な教育相談体制の構築に向けて 第15回：地域や他の専門機関との連携について。学習のまとめ。			
テキスト：特に指定しない。			
参考書・参考資料等：『絶対役立つ教育相談－学校現場の今に向き合う』（ミネルヴァ書房）			
学生に対する評価：学期末の大レポート(80%)と、授業時の小レポート(20%)をあわせて評価する。			

授業科目名： 生徒指導・進路指導の 理論及び方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹村景生、金山元春 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</li> </ul>		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。</p> <p>進路指導は、児童生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>講義、演習を通じて、次の4つの目標を達成できるように授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒指導の意義や原理ならびに進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。</li> <li>2. すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方ならびに進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。</li> <li>3. 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。</li> <li>4. 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。</li> </ol>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導・進路指導を学ぶにあたって</p> <p>第2回：生徒指導・進路指導を実践する教師のあり方</p> <p>第3回：生徒指導の意義・原理</p> <p>第4回：自己存在感を与える</p> <p>第5回：共感的な人間関係を育成する</p> <p>第6回：自己決定の場を与える</p>			

第7回：個と集団の理解

第8回：集団指導と学級経営

第9回：積極的生徒指導

第10回：校則・懲戒・体罰等と生徒指導に関する法制度等

第11回：生徒指導上の諸課題、不登校、いじめ、暴力行為、非行等

第12回：進路指導・キャリア教育の意義・原理

第13回：全体指導とガイダンス

第14回：個別指導とカウンセリング

第15回：今日的な課題と組織的対応・連携

テキスト

文部科学省 2022 生徒指導提要 ～令和4年12月改訂～

文部科学省 2023 中学校・高等学校キャリア教育の手引き

参考書・参考資料等

未来の教育を創る教職教養指針<10> 生徒指導 2023 学文社

生徒指導論・キャリア教育論(ミネルヴァ教職専門シリーズ) 2023 ミネルヴァ書房

学生に対する評価

毎回の授業の最後に提出する課題 (100%)

教職実践演習（中・高）	単位数：2単位	担当教員名： 教職担当：上田喜彦、仲 淳、竹村景生、 須永哲思、小島源一郎、富田稔			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次秋学期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	20人（11クラスで実施）				
教員の連携・協力体制 教職課程の各教員及び教科を担当する教員との連携協力を必要に応じて行う体制ができている。					
授業の到達目標及びテーマ 教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情や社会性や対人関係能力の向上、生徒理解や学級経営及び教科・保育内容等の指導力に関する事項について、これまでの学びを教員として最小限必要な資質能力として統合することができる。					
授業の概要 それぞれの授業では、適宜履修カルテを用いてグループ討議や現場研修、ワークショップなどをおとして、演習形式で授業を進める。					
授業計画 第1回：オリエンテーションとこれまでの学びの振り返り－履修カルテを用いて 第2回：教員の職務と責任について考える（教職の意義と教育の制度を見直す） 第3回：教員に求められる資質や能力について考える（心の教育という観点から） 第4回：教育現場における人間関係を見つめる（保護者対応のロールプレイを実施） 第5回：小学校での授業観察から考える（1）～小学校現場でのフィールドワーク 第6回：小学校での授業観察から考える（2）～フィールドワークの省察（グループでの討議とプレゼンテーション） 第7回：学級経営とグループエンカウンター（構成的グループエンカウンターの実施） 第8回：進路指導とキャリア教育（キャリアカウンセリングのロールプレイを実施） 第9回：特別な支援の必要な生徒とのかかわりを見つめ直す（グループワークの実施） 第10回：教科等の実践力を高めよう（1）特別活動の学校行事を計画してみよう 第11回：教科等の実践力を高めよう（2）模擬授業の計画 第12回：教科等の実践力を高めよう（3）模擬授業を実施 第13回：教育現場における人権感覚の重要性を再認識しよう（グループ討議を実施） 第14回：これから必要な授業におけるICT活用について考えてみよう 第15回：教職実践演習の総括と履修カルテによる自己評価（リフレクション）					
テキスト 教職実践演習（中・高）ハンドブック あいり出版					
参考書・参考資料等 適宜指定する。					
学生に対する評価 授業ごとの成果物を評価規準に照らして評価することや授業の中で、他者と共同した学修への					

取り組み及び提出された成果物（レポート等）をもとに、授業全体への取り組みを総合的に評価する。

**【成果物の評価規準】**

A+：授業やグループ活動に積極的に参加し、提出されたレポートの完成度が高いもの。

A：授業やグループ活動に積極的に参加し、提出されたレポートが課題を満たしているもの。

B：提出されたレポートの完成度が高いもの。

C：提出されたレポートが課題を満たしているもの。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。